

ホテルによって異なる処理や運用を標準化し 高い効率性を実現することでチェーンの力を強める

ジャック・タン氏 (IT統括部長)

2006年に設立された「IHG・ANA・ホテルズグループジャパン合同会社」(IHG・ANA)は、インターコンチネンタルホテルズグループ(IHG)と、全日本空輸(ANA)の業務提携によるジョイントベンチャー会社。企業文化やビジネス手法の異なる2社がタッグを組むに当たり、(株)ユニコーンの婚礼・宴会会総合支援システム「BV Manager」を選んだ理由は何か。

IHGANAは、世界最大の客室数を誇るホテルチェーンのIHGと、日本を代表する航空会社のANAが共同出資してきた合弁会社。「ANAインターコンチネンタルホテル」、「ANAクラウンプラザホテル」といった共同ブランドのほか、複数のホテルブランドを日本で展開している。国内でマネジメントとフランチャイズを合わせて42ホテルを運営している。

企業文化やビジネス手法の違い、大都市と地方都市での展開などから、合弁会社設立前のデューデリ

リジェンス(事前精査)の段階で、現在はIHG・ANAのIT統括部長を務めるジャック・タン氏が各ホテルのビジネス形態を調査し、各ホテルおよびチェーンと



IHG・ANA・ホテルズグループジャパン
ジャック・タン IT統括部長

して適した婚礼・宴会システムを探した。そこで出会ったのがユニコーンの「BV Manager」だった。数あるソフトウェアやアプリケーションの中から「BV Manager」を選んだ理由を、タン氏は次のように語る。

「日本の婚礼・宴会システムとして最高のものの一つであるということ。また、日本で展開している外資系ホテルチェーンの多くでも採用されていることもポイントの一つです。さらに、『BV Manager』が持っている機能や使いやすさが、私たちの希望に合致していることが分かったからです」

※ ※ ※

IHG・ANAは昨年システム導入時、ロケーションや規模、宴会スペースの有無などホテルの物理的な要素や、市場のニーズを考え、婚礼・宴会システムが必要と思われる14ホテルに「BV Manager」を導入した。IHG・ANAが「BV Manager」を導入した目的は、ホテルによって異なる処理や運用を標準化し、それによって高い効率性を実現することである。

『「BV Manager」はとてもユーザー・フレンドリー。特に宴会販売担当者には使いやすいユーザー・インターフェイスを提供しています。また、IHG・ANAがホテルをマネジメントするに当たって必要とする予測や実績の数値が、スピーディーで素晴らしい帳票で作ることができます」

「BV Manager」の優れている点について、ユーザーの声を代表してタン氏はこう語る。

※ ※ ※

「ユニコーン社とはクライアントとベンダーという付き合いではなく、あくまでもパートナー」と、タン氏は強調する。これは、IHG・ANAが目指すビジネスを実現するためのシステムのカスタマイズに、ユニコーン社が真摯に対応していることへの信頼の表れだろう。

「システムとしてのポテンシャルは常に上げていくため、導



(株)ユニコーン 山本泰生
全社統括プロジェクトマネージャー

入していただいたホテルを回り、情報収集と使い方の指導をしています」

ユニコーンの山本泰生全社統括プロジェクトマネージャーは真摯にこう語る。

※ ※ ※

さて、最後に「BV Manager」の機能と特性をご紹介します。

①式場・宴会場の予約状況を年間カレンダー、月、日、六輝星ごとにビジュアル表示、②予約スケジュールをチャート腕表示、③仮予約・予約・取り消しなどのデータの即時更新(リアルタイムでの情報共有)、④顧客データの多様な検索機能と打ち合わせ進捗状況、変更履歴の管理、⑤法人宴会の履歴管理と成約前フォローの支援機能、⑥精算、仕分け業務など会計処理の効率化、⑦売り上げ分析など各種営業データの分析機能—などがある。

このほかにもアプリケーション機能はさまざまあり、ホテルの営業状況に応じてシステムを構築していくことができる。また、汎用機能で対応できない分野はカスタマイズが可能なので、オーダーメイドに近い使い勝手となる。こうした点は、ホテル宴会システムに特化し、徹底的に現場ニーズをくみ上げてきたユニコーン社製品だからこそ可能なのだ。



ホテルによって異なる処理や運用を標準化し、それによって高い効率性を実現することができる